

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2190500153		
法人名	有限会社百々		
事業所名	グループホーム百々各務原		
所在地	岐阜県各務原市那加桐野町7丁目44番地1		
自己評価作成日	平成30年7月4日	評価結果市町村受理日	平成30年10月2日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.nhi.w.go.jp/21/i/ndex.php?acti.on.kouhyou.detai.1.2017.022.kani.tr.ue&ji.gyosyoCd=2190500153-00&Pr.efCd=21&Ver.sis.onCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会		
所在地	岐阜県大垣市伝馬町110番地		
訪問調査日	平成30年8月30日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホームの理念「家庭的な雰囲気の中で心安らぐ毎日を」掲げ、一緒に食卓を囲み、家事を行い、日常生活を穏やかに過ごしています。利用者様の「できること」「できないこと」を見極め、必要時は支援を行っています。ホームの活動「花見」「いちご狩り」、幼稚園との交流「クリスマス会」「七夕会」、家族様ご参加の「夏祭り」等、行事は多岐にわたります。「歌」や「マジック」のボランティア訪問を楽しんでいた中で、今年は傾聴ボランティアの来訪もあり、マンネリ化しないよう工夫しています。また地域の方々のご協力を頂き、「避難訓練」や「運営推進会議」へのご参加、ホームからは「市民清掃」「ふれあいサロン」参加を通して交流が増えています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

職員は、利用者が家庭的な雰囲気ですぐに過ごせるよう取り組んでいる。ちょっとしたことでも記録し、情報を共有し、より良いケアにつながるよう努めている。管理者は、地域とのつながりを大切にし、清掃活動に参加したり、地域のふれあいサロンで認知症予防体操を行ったりしている。、自治回覧に夏祭りや消防訓練などの情報を載せてもらい、地域の人の参加がある。幼稚園児や様々なボランティアの人の訪問があり、利用者で交流している。火災訓練では自治会や消防団、ボランティアの人たちが参加し、協力している。火災訓練の他、地震・水害などそれぞれに応じた訓練を実施し、夜間想定訓練は、現実に近い状態にするため夜間に行っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホームの見やすいところに理念を掲示し、常に意識している。また理念に沿って利用者様と職員が近い関係の中で支援している。職員間でも時に理念の振り返りを行っている。	理念を掲示し、申し送り時やミーティング時に話し合い、「家庭的な雰囲気の中で心安らぐ毎日を」を実践している。管理者は職員が仕事に悩んだ時などにも理念を基に実践するよう指導している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議、地域清掃、自治会協力の避難訓練、ふれあいサロン、夏祭り、地域のボランティア訪問など、自治会や幼稚園との交流が定期的に行われている。自治会回覧にも行事予定を載せてもらっている。	清掃活動やふれあいサロンなど地域の行事に参加し、幼稚園児や様々なボランティアの人の訪問がある。自治会の回覧に夏祭りや消防訓練などの情報を載せてもらい、大勢の人が参加して、利用者で交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ふれあいサロンの認知症予防体操でお話する機会を得ている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議にてホームの活動報告を行っている中、認知症カフェへのお誘いを頂き現在利用者様と「楽しいお出かけ」の一つとして生かされている。	事業所から活動報告などを行い、参加者から地域の情報などを得ている。認知症カフェへの誘いやボランティアの紹介があった。車いすや歩行器の話題では体験していただいた。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	各務原市の「サービス事業者協議会」に加盟し、情報はメールで配信されている。その中で市主催の研修など、できる範囲で参加している。質問、不明な点は担当者に直接お尋ねして解決している。	サービス事業者協議会に加盟し、会議や研修会に参加している。救急搬送時の注意点、介護ロボットについてなど情報を得ている。事業所の状況や空き情報を伝えたり市からの情報を得たりして協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	今年度より「身体拘束等の適正化委員会」を設け身体拘束についてより一層話し合う機会ができた。玄関の鍵は市からの指導で施錠しているが、掃き出し窓からは自由に出入りできる状態である。	身体拘束や虐待について計画的に研修を行っている。外出を希望する利用者には、職員が付き添い、他の階へ遊びに行き気分転換を図ったり、本人の気が済むまで散歩したりして対応している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	上記「身体拘束等の適正化委員会」や研修で「虐待」についても学んでおり、職員同士で注意しあっている。		

グループホーム百々各務原

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	「虐待防止」に絡み権利擁護、後見人制度についても施設内研修で学ぶ時間をもって。後見人制度を利用しておられる方がおられるが、職員は日常的に意識することはない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時にご説明している。不明な点は何時でもお尋ねいただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議へご参加頂くこと、玄関の「意見箱」設置などで意見を伝える場を設けている。外部評価のアンケートも参考にしている。	訪問時や電話で利用者近況報告をする時に意見や要望を聞いている。アンケートより外出の機会を増やして欲しい希望を受け、計画を立てた。認知症カフェに参加したり、車いすの人も出来る限り外出する機会を作った。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	改まった時間を設けることは出来ていない。ある程度のことはミーティング内で決定している。	管理者は、仕事を含め、色々な機会に意見や提案を聞いている。職員は備品の購入やシフト・社員旅行の要望などを出している。職員の意見より居間のソファの買換え・シャワーチェア購入をした。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	評価につなげる話し合いができればいいと考えます。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修への参加や施設内研修を定期的に行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者の交流はあり、職員に参加周知をするものの、積極的な参加は得られていない。		

グループホーム百々各務原

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご入居される前にご家族様やご本人様から情報を頂き、職員が情報共有して信頼関係づくりに役立っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初回サービス計画をたてるにあたり、家族様の不安、要望をお尋ねし、信頼関係の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ホームでのサービス以外に必要なであれば家族様の協力を頂いている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人ができることを見極め、場合によっては職員見守りの中行って頂き、共同で作業できるような環境を整えている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	近況をお伝えしながらご本人の「今」を理解していただき、その上で家族様と職員が何ができるかを考えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	顔なじみの関係を継続できるよう、面会時に再来訪につながる声掛けをさせていただいている。	馴染みの人の訪問時には必ず再訪を依頼している。会いたい人があれば、家族に伝えている。馴染みの店に買い物に行ったり、自宅の近くをドライブしたりして支援している。携帯電話を利用している人もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は各利用者様の人間関係をすべて把握しており、座席の誘導を行ったりして人間関係が円滑に行えるように努めている。		

グループホーム百々各務原

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご退去後のご様子を伺い、時には訪問させて頂いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一緒に生活する中で希望、意向は十分に把握している。表現が困難な方は家族様の意向も含めて職員間で検討し、よいと思われる支援を実施している。	普段の利用者との会話から気付いたことや利用者の様子を細かく記録している。何気ない言葉の中から思いや意向を把握し、職員全員で共有している。困難な方は家族からの情報を中心に相談しながら把握している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を用いアセスメントを行っている。核家族化が進み、家族様から情報を得られないことが多くなっているため、その場合は以前のケアマネや近隣の方、民生委員から情報を頂くこともある。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	決まった職員が勤務しており、利用者様の状況はすべて把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画作成にあたってはご本人、家族様始め職員全員の意見を聞き、医療依存度が強い場合は医師の意見も反映し、状況変化にはその都度対応している。	本人・家族にサービス担当者会議の前後に意見や要望を聞いている。毎月モニタリングを行い、医師の意見や、ミーティングなどで出た職員の気づきを参考にして作成している。状態に変化があれば、随時見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は申し送りし、経過報告書に記載。情報を共有している。介護計画作成時に活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人様や家族様の要望を検討し、できることは支援する方向で活動している。		

グループホーム百々各務原

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の把握をしつつ、協働できるようアプローチしている段階である。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望通りのかかりつけ医を持っていたい。医師とは口頭か書面でやり取りを行い、時には家族様と一緒に付き添うこともある。	利用者・家族の希望するかかりつけ医に受診し、往診も可能である。協力医以外の受診は家族同行を基本としている。家族同行の場合は、書面や直接医師に電話をし現状を伝えている。受診後は必ず報告を受けている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	異変は経過報告書に記載し、看護師に電話や来所時に報告相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時は必ずソーシャルワーカーや担当看護師と情報交換を行い、必要時は訪問している。また、ホームにおいていただくこともある。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時にご説明しているが、状態変化に伴いその都度家族様と相談し、支援内容について意向も踏まえて検討している。例えば他の施設転居、入院。	契約時に事業所の方針を説明している。状態の変化に伴い、その都度家族と話し合っている。家族・医師を交えた三者で話し合い、同意書を交わして方針を共有している。職員は救急救命や緊急時対応の講習を受けている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	1回／年、救急救命講習を受けてもらい、緊急時の対応に備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災・震災の避難訓練を実施。1回／年は自治会、消防団との連携の中行っている。夜間避難訓練、水害避難訓練も実施。職員緊急連絡網も回し、訓練している。備蓄も1.2階に分散し備えている。	火災・地震・水害の訓練を実施している。夜間想定訓練は、実際に、夜間に行っている。予定を自治会の回覧に乗せてもらい、自治会や消防団、近隣ケアボランティアの人たちも参加し、協力体制を築いている。	

グループホーム百々各務原

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄時の声掛けなど配慮しているが、耳が遠い方には時に大声になってしまっている。	職員は、一人ひとりの人格や誇りを傷つけないような言葉かけをし、互いに注意しあっている。オムツなどは、目立たない所に保管している。トイレ誘導などでは雑な言葉になってしまうこともある。	耳が遠くコミュニケーションを取りにくいなど、いろいろな困難もあると思われるが、より良いケアができるよう、全員で話し合うことを望む。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	思うように言葉にならない方には表現しやすいように促し、決定につなげている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	集団生活のルールを最低限守りつつ、食事の時間、入浴など、自分のペースで生活できるよう配慮している。夜間入浴される方もみえる。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	時に声掛け支援し、その時に相応しいファッションをして頂けるよう心掛けている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	できる方には買い物や畑の収穫を一緒に行い、下ごしらえ、調理している。片付けも利用者様が自ら行えており、職員と一緒に準備片付けが行えている。	希望を考慮し、食材を見て調理している。利用者は、力量に応じ買い物・下ごしらえ・片付けなどを手伝っている。職員も共に食卓を囲み会話しながら楽しく食事をしている。庭でお茶をしたり、外食に出かける事もある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の摂取量を記録し、不足無いよう支援している。一度に摂取できない方は一日の中でこまめに提供。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは毎食実施。必要時は仕上げ磨きを行っている。歯科受診や義歯の製作、寝たきりの方には訪問歯科で対応し、清潔を意識したケアに取り組んでいる。		

グループホーム百々各務原

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンは把握しているので、時間ごとに誘導し、失敗を予防。車いすの方もトイレでの排泄努力を行っている。	一人ひとりの排泄パターンを把握し、誘導し、夜間もトイレで排泄している。希望により夜間のみポータブルトイレを使用する人もいる。立位が困難な方も、出来る限りトイレでの排泄を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄パターンから便秘の方には必要時に便秘薬を服用して頂いたり、飲水を増やしたり、乳製品の摂取など検討して実施している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個人浴で楽しんでいただいている。一番風呂、終い風呂、好みでお誘いしている。希望の方は見守りの中お一人で好きな時間に入浴される。	一日おきに個浴で入浴している。入浴順や湯温などそれぞれの希望に合わせている。利用者と一対一になれる機会であり、職員は会話をしながらゆっくり楽しく入浴できるよう心掛けています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	寝具を整え、居室の清掃を行い、安眠できる室温で休んでいただいている。人によっては抱き枕使用。ベッドの位置も替えたりしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬説明に職員が目を通すようにしている。ほとんどの職員が把握しているが、変更があると周知までに時間がかかることもある。薬の影響は記録に記載することで主治医に伝えることができるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	職員は利用者様の趣味嗜好を把握しているので、勤務時間内で外出支援や、楽しみごとの提供を考え実践できている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出支援を心掛けており、散歩、買い物やカフェ、ランチなど実施しているものすべての希望を叶えることは難しく、家族様の協力を頂き可能になっている。	計画を立てて、花見・紅葉狩り・菖蒲祭など季節ごとに出かけている。天候の良い時は散歩や買い物・喫茶店に行っている。困難な方も、散歩や庭に出るなど、出来る限り外出の機会を作っている。家族などの協力を得ながら外出の機会を増やす支援をしている。	

グループホーム百々各務原

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	トラブルのもとになるため基本的に所持はないが、希望されれば所持される場合もある。その場合は家族様の理解を得て本人に管理して頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯を使用されている方もあり、通信は自由。頼まれれば電話の取次ぎもし、支援している。年賀状は担当職員と一緒に書き上げている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	広いリビングには太陽光が入り開放感がある。テーブルに季節の花を生けたり、有線放送のBGMを流したりして季節感を出している。壁には行事の写真を貼り思い出につながるような工夫もしている。	浴室やトイレの表示が大きく見やすい。居間の壁には行事の写真を貼っている。大きなソファで囲まれたコーナーでくつろげる様になっている。利用者の活けた花が飾られ、ペランダに朝顔が咲いている。庭には洗濯物が干されていて季節感・生活感がある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者の人間関係を把握しているので、座席には気を配り誘導。おしゃべりが楽しめるように考えている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族様と本人にお任せしている。筆筒以外に仏壇やTV、座椅子など持ち込まれている。危険が伴うときは相談し配置の変更等させて頂いたが、基本自由に使用して頂いている。	入り口扉に、手作りの名札が架かっている。壁には家族写真などが飾られ、整理ダンス・テレビ・仏壇・遺影などが置かれている。布団、枕など使い慣れたものを持ち込み居心地よく過ごせる居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各部屋に分かりやすく「トイレ」「お風呂」、各人の表札を掲示。(表札は家族様手作りや職員と本人との共同作業で作製している)		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2190500153		
法人名	有限会社百々		
事業所名	グループホーム百々各務原		
所在地	岐阜県各務原市那加桐野町7丁目44番地1		
自己評価作成日	平成30年7月4日	評価結果市町村受理日	平成30年10月2日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.nhi.w.go.jp/21/index.php?act=on_kouhyou_detail_2017_022_kani_true&ji_gyosyoCd=2190500153-00&PrEfCd=21&Ver:siOnCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会		
所在地	岐阜県大垣市伝馬町110番地		
訪問調査日	平成30年8月30日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念「家庭的な雰囲気の中で心安らぐ毎日」を柱に、共に生活することで家族のような温かい日々を送れるよう意識し、実践している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議、地域清掃、自治会協力の避難訓練、幼稚園との交流会、地域ボランティア訪問、ふれあいサロンなどを通して交流できている。行事は地域回覧してもらっている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	帰宅願望の強い方には地域の傾聴ボランティアに訪問して頂いたり、ふれあいサロンの認知症予防体操でお話する機会を得ている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議にてホームの活動報告を行っている中、認知症カフェへのお誘いを頂き現在利用者様と「楽しいお出かけ」の一つとして生かされている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	各務原市の「サービス事業者協議会」に加盟し、情報はメールで配信されている。その中で市主催の研修など、できる範囲で参加している。質問、不明な点は担当者に直接お尋ねし解決している。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	今年度より「身体拘束等の適正化委員会」を設け身体拘束についてより一層話し合う機会ができた。玄関の鍵は市からの指導で施錠しているが、階段やエレベーターを自由に使用して1F,2Fを往来することができる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	上記「身体拘束等の適正化委員会」や研修で「虐待」について学んでおり、職員同士で注意しあっている。		

グループホーム百々各務原

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	「虐待防止」に絡み権利擁護、後見人制度についても施設内研修で学ぶ時間をもってしている。現在利用されている方はおらず、職員が意識することは少ない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時にご説明している。不明な点は何時でもお尋ね頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議へご参加頂くこと、玄関の「意見箱」設置などで意見を伝える場を設けている。外部評価のアンケートも参考にしている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	改まった時間を設けることは出来ていない。ある程度のことはミーティング内で決定している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	評価につなげる話し合いができればいいと考えます。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修への参加や施設内研修を定期的に行っている。職員間で資格取得を奨励。資格取得については会社のバックアップが必要である。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者の交流はあり、機会も多いが職員の意識が低く、積極的な参加がみられない。		

グループホーム百々各務原

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご入居に際し事前にご本人、ご家族様よりアセスメントし、こまめにコミュニケーションをとり、安心して頂ける関係づくりに努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	こまめに連絡を取り合うことで信頼関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントすることで必要なサービスを見極め、リハビリや訪問歯科、ボランティアなどの訪問につなげている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様が笑顔で毎日を暮らせるよう、相手を尊重し、家族のように思い生活している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	近況をお伝えしながらご本人の「今」をご理解いただき、その上で家族様と職員が何ができるかを考えている。家族様とのつながりも大切にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会時に次回の来訪をお声がけしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は各利用者様の人間関係をすべて把握しており、座席の誘導を行ったり、レクリエーションや共同作業ができるよう配慮している。		

グループホーム百々各務原

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご退去後のご様子を伺い、時には訪問させていただいている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	コミュニケーションの中から本人の意向を把握し、常に本人本位で考えている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントすることで家族様や本人よりお話を聞いたり、以前の関係者より情報を収集して把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	決まった職員が勤務しており、利用者様の状況は職員が情報共有に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画作成にあたっては担当者会議でご本人、家族様始め職員全員の意見を聞き、医療依存度が強い場合は医師の意見も反映し、状況変化にはその都度対応している。担当者会議に出席できない場合は事前に意向をお尋ねしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や変化は介護記録、経過報告書に記載し情報共有し検討しているが、対応困難な方には特別に記録を記載し対応を検討している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	必要な方にはボランティア訪問を導入し、外出支援も取り入れ柔軟に対応して支援に努めている。		

グループホーム百々各務原

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を把握しつつ、協働できるようアプローチをしている段階である。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望通りのかかりつけ医を持っていただいている。医師とは口頭か書面で情報を交換し、時には家族様と一緒に付き添うこともある。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	異変は記録し、訪問時に相談報告している。緊急時は電話対応も行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時は必ずソーシャルワーカーや担当看護師と情報交換を行い、必要時は訪問している。また、ホームにおいていただくこともある。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時にご説明しているが、状態変化に伴いその都度家族様と相談し、支援内容について意向も踏まえて検討している。例えば他施設への転居、入院。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	1回/年、救急救命講習を受けてもらい、緊急時の対応に備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災、震災の避難訓練を実施。1回/年は自治会、消防団との連携の中行っている。夜間避難訓練、水害避難訓練も実施。職員緊急連絡網も回し、訓練している。備蓄も1・2Fに分散し備えている。		

グループホーム百々各務原

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重してるが、時に命令形の言葉遣いをしてしまうことがある。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定できるような環境づくりに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	集団生活のルールを最低限守りつつ、食事の時間など、自分のペースで生活できるように配慮している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみには配慮し、鏡を見ていただき整容できるよう毎日支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	自立度の高い方は一緒に準備、後片付けを行って頂いている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状態や習慣に合わせてミキサー、刻み、トロミ材使用して一日の摂取量が不足しないよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは毎食後実施。仕上げ磨きも手伝い、口腔内の清潔に努めている。訪問歯科を利用されている方も見える。		

グループホーム百々各務原

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表活用し各利用者様の排泄パターンを把握している。できるところは自分で行って頂くよう努めている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	運動や水分摂取で予防に努める一方、寝たきりの方には腹部マッサージや漢方薬などで便秘解消に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	できる限り希望に沿っているが、職員の都合になるときもある。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	寝具を整え、居室の清掃を行い、安眠できる室温で休んでいただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明に目を通し、職員が理解に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	各人の役割や楽しみを提供して、メリハリある生活ができるよう考えている。散歩や外出で気分転換を図っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出支援に努めており、季節にそった「花見」「紅葉」「いちご狩り」等々、時に家族様もお誘いしている。		

グループホーム百々各務原

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	トラブルのもとになるため金銭所持はない。買い物は立替で行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を敬遠される家族様も見えて、ご本人の希望通りにいかないこともある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日の清掃を大切にし、清潔を保っている。季節の花を利用者様が生け、掛け軸を交換し、一年中季節感を大切に過ごしていただいている。有線放送からその時にあったBGMを流し、気持ちの良い空間づくりに心掛けている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者様同士がおしゃべりを楽しめる環境づくりに配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人の馴染みの品を持ち込んでいただいている。筆筒や位牌。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室には表札、トイレや浴室には分かりやすい表示をし、分かりやすくしている。		